

## システム情報科学府

I	教育の水準	.....	教育 28-2
II	質の向上度	.....	教育 28-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 公的研究機関や民間企業での研究開発経験を有する教員が平成27年5月現在34名在籍しており、関連産業分野の動向等を見据えた実学教育を行っている。
- 国際的視野で活躍できる人材の育成のため、エジプト日本科学技術大学（エジプト）との連携により博士後期課程におけるダブルディグリープログラムを実施している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 博士後期課程において、英語のみを用いて学位を取得することが可能な課程としてグローバルコースを全専攻に設置しているほか、1か月以上の海外インターンシップを必修科目とする国際実践コースを設置し、部局長裁量経費により一人当たり50万円の海外渡航費の助成を行っている。
- 学生が自らの学習・研究状況を把握できるWebシステムを整備するとともに、自身の研究課題設定と進捗を報告・討論する科目を設けるなど、主体的な学習の促進を図っている。

以上の状況等及びシステム情報科学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度の修士課程における標準修業年限内の修了率は平均約92%、博士後期課程における標準修業年限内修了率は平均約49%となっている。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）において、国内の学会や研究会、国際会議に参加して研究発表を行った学生のうち、毎年1割程度が学会等の賞を受賞している。また、第2期中期目標期間の日本学術振興会の特別研究員（DC）の採用は31名となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間における就職希望者の就職率は、修士課程では約97%、博士後期課程では約84%となっている。
- 平成25年度、平成27年度に実施した就職先・進学先等の関係者への意見聴取では、実務能力、協働力、志向力等について、8割以上が肯定的に評価している。

以上の状況等及びシステム情報科学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 1か月以上の海外インターンシップを必修とする国際実践コースを新たに設置するとともに、平成27年度から博士後期課程の全専攻に英語のみで修了可能なグローバルコースを設置している。また、エジプト日本科学技術大学との博士後期課程ダブルディグリープログラムを新たに実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成22年度から平成26年度で、学会及び各種コンペティション等における学生の受賞は、年度平均42件となっている。
- 第2期中期目標期間における修士課程修了生の就職率は約98%となっており、主な就職先は電気、電子、情報、通信等の企業となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。